

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2372201182
法人名	株式会社エイム
事業所名	グループホーム 森の家
訪問調査日	平成20年3月26日
評価確定日	平成20年4月23日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
**[取り組みの事実]**  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
**[取り組みを期待したい項目]**  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
**[取り組みを期待したい内容]**  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2372201182
法人名	株式会社エイム
事業所名	グループホーム 森の家
所在地	一宮市森本一丁目12-12 (電話) 0586-25-5550

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成20年3月26日	評価確定日	平成20年4月23日

## 【情報提供票より】(平成20年3月3日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年12月27日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤	14人, 非常勤 10人, 常勤換算 6.9人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000~50,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 150,000 円	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	640 円
	夕食	380 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成20年3月3日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	7名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.6歳	最低	63歳	最高	98歳
協力医療機関名	野村医院				

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理念として「アットホームな介護」を掲げ、重要事項説明書と共にリビングに掲示されている。職員は理念をもとに、大家族の家庭をイメージしながら、安心して楽しく温かい介護に努めている。管理者は地域密着型サービスについての意識、役割などの理解はしているが、取り組みには至っていない。ホームは住宅地域に位置し、近くに公園、ショッピングセンター、飲食店があり、散歩、買い物、外食など楽しむことが可能な立地条件である。玄関やフロアの入り口には施錠はされておらず、ホーム内の移動は自由にでき、別フロアの職員とも顔馴染みになっている。地域ボランティアの訪問もあり、毎週の読み聞かせ、大太鼓の演奏、舞踊、大正琴の演奏などがあり、入居者、家族が楽しみにしている様子が、掲示してある写真からうかがえる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題について、ミーティングで話し合い、情報を共有し、入居者の利益を優先する介護サービスのため、ホーム独自のチェックシートを作成し、職員全員が現状を把握するよう周知徹底して、ケアの向上に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価は、ホームの現状を外部者に知ってもらう良い機会と捉えている。自己評価は、介護サービスの質の向上を図るために重要であると職員は認識しており、各自が取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	メンバーは民生委員、町内会長、家族代表、入居者、管理者、職員で構成されている。会議では、理念を始め外部評価や認知症についてなど説明し、ホームの役割、活動方針を議題として話し合っている。また、メンバーから地域の情報を頂き、ホームの行事、運営に反映させている。行政からの参加は今のところ無いので、今後の取り組みに期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホームの行事には、家族も参加しており職員、家族の交流はあるが、家族会は組織されていない。家族が訪問した時は、必ず職員と話をする時間をつくり、ホームでの暮らしぶりや、行事予定など話したり、家族からの要望などを聞いている。今後は家族同士のつながりについても視野に入れ検討されることを期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入しており、地域の行事には、できる限り参加するよう心がけている。近くの公園や託児所で、地域住民とふれあう機会は多くあり、地域との交流も深まりつつある。地域ボランティアの訪問は、入居者、家族の楽しみになっている。ホームを地域の人達に知ってもらうよう、回覧の活用を検討中である。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「アットホームな介護」を理念とし、取り組むべき重要課題として、リビングルームの目に付きやすい場所に掲示している。理念は開設時に、運営者と管理者によってつくりあげ、現在に至っている。大家族での家庭生活の延長をイメージして支援することを目指している。		理念に基づく「アットホームな介護」の実施と共に今後、地域密着型サービスの役割や目的などを理念に反映するよう理念の見直しを検討することに期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見やすいリビングに掲示され、職員は日常的に意識づけ、確認ができるよう努めている。管理者は理念について、連絡ノートやミーティングの時、朝夕の申し送りなどを利用して、全職員に対し理解を深め意識の統一に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民とは散歩の途中で言葉を交わしたり、近くの託児所の子ども達とも話をする機会がある。町内会に加入し回覧板も回っている。地域の行事に参加したいが余り活動が活発ではない。少ない機会を捉えて祭りやカラオケ会には参加している。地域のボランティアの訪問を受けている。		ホームとして、地域の行事などへの参加の意欲を持っていることから、自治会の広報、回覧を活用して、地域の人々に「グループホーム森の家」を知ってもらい、理解してもらえよう、さらなる取り組みに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の改善点について、ミーティングにおいて話し合い、共有を図り、入居者の利益を優先しホーム独自のチェックシートを作成して、ケアの向上に取り組んでいる。外部評価を外部の人にホームを知ってもらえる機会と捉え、運営推進会議で話をしている。自己評価の必要性を職員に理解させて取り組みを行っている。家族アンケートの結果を職員に回覧し、話し合いを行いケアに活用して職員の意識の向上に役立てている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2カ月に1回開催し、メンバーは地区民生委員、町内会長、家族代表、入居者代表、管理者、職員で構成され、会議では理念を始め、外部評価や認知症など説明し、ホームの役割、活動を議題としている。2月に市の監査を受けた際、会議開催を市へ連絡するよう要請があり、次回から市担当者の出席を依頼する予定である。メンバーから地域の情報を頂き、ホームの運営に反映させている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市役所の窓口にホームのパンフレットを置かせてもらい、住民にホームへの理解を得よう努めているが、市担当者への積極的な情報提供が不足しているので、今後これらの改善に取り組むたいと考えている。また、入居者に後見人制度を利用している方がおり、地域包括支援センターとの連携は図られている。</p>		<p>市に行き来する機会をつくり、ホームの運営、活動などの情報を積極的に提供する事によって、情報の共有を図り、地域密着型サービスとしての協働関係づくりの取り組みに期待したい。</p>
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2カ月に1回、職員がお知らせを作り、ホームの行事予定や入居者の現状などを定期的に家族に報告している。家族の来訪時には、職員から入居者の暮らしぶりを説明したり、家族の要望などを聞き、お互いに情報の共有を図るようにしている。また、入居者に変化のある時は、必ず連絡しリアルタイムに情報を提供している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会としての活動は無いが、ホームの行事予定を連絡し家族への参加を呼びかけた。遠方への外出、大太鼓の演奏会などは多数の家族が参加して、家族間や職員との交流の場となっている。家族の来訪時に職員と話し合った内容は連絡ノートに記載し、管理者を含む全職員に回覧し共有し、その意見、苦情などをホームの運営に反映させている。</p>		<p>ホームの行事には家族の参加もあり、その時に家族と職員が話し合う機会があり、また、日頃家族が来訪された時に要望などを聞いている。今回、家族同士が話し合う場について家族アンケートで要望が出ていることもあり、今後は家族同士のつながりについても視野に入れ検討されることを期待したい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内のホームへの異動は少ない。ホーム内でのユニット間の異動(1,2階)はあるが、入居者もホーム内を自由に行き来している。職員は1,2階の区別無く入居者を把握しており、声かけなどを行っていることから、顔馴染みの関係が継続されており、異動のダメージの軽減に配慮されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回、市主催の研修会や名古屋市社会福祉協議会主催の認知症についての研修会などの参加を、職員の希望により受講している。ミーティングの際、受講者から内容の報告をしてもらい、資料を回覧して、全職員で共有することにより、サービスの質の向上に努めている。講義内容によっては勤務扱いにしたり、交代して受講するなど配慮はしているが、年間を通しての研修計画については、今後の課題である。		年間の外部研修情報、内部研修計画の作成などと共に、職員の参加希望者を募り、計画に沿って受講させるなどの全職員参加に向けた取り組みに期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者および管理者は、研修会などで同業者と話す機会はあるが、定期的な交流は持っていない。運営法人は4つのグループホームを有しているが、法人内の管理者、職員の交流は行われていない。		法人内にグループホームを4箇所所有している事から、同法人内で職員や入居者の相互訪問など順次交流の拡大を図り、情報の交換や課題の改善に努め、介護サービスの質の向上につながる様、今後の取り組みに期待したい。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の体験入居は1週間程度で実施されており、見学は必ず家族などに来てもらい、本人が来ることもある。入居予定者が入院、入所している場合は、ホームから面接に向くなどの配慮をしており、入居日が初めての顔合わせにならないよう取り組んでいる。また、入居前には本人を交え、家族と十分話し合いを行い、本人や家族ができるだけ安心して入居できるよう心がけている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	早起きしたり、寝付けない入居者がいると、一緒にお茶を飲みながら何気ない会話をする機会を持っている。こうした日常生活の中で入居者の「こだわり」「要望」「不安」などの気持ちを把握するよう配慮している。また、リハビリを兼ねた買い物や散歩など外出した時に、入居者との会話の中で、その人の意向を知る機会となっており、こうした情報は申し送りノートで全職員で共有し、サービスの向上に役立っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者にその人らしい生活ができる様、職員は入居者の視点に立って全体を捉えることを心がけ、「気づいたことチェック表」を作成して、少しの変化も見逃さないよう記入している。意思表示の困難な入居者には、アセスメントを入念に行うと共に、家族の協力を得つつセンター方式（アセスメントシート）を取り入れ、本人の希望や意向を的確に把握するよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月1回のミーティングで入居者の状況について話し合いをしている。計画作成担当者が最終的に職員の意見や職員が記入する「気づいたことチェック表」などを参考にしながら介護計画を作成している。家族には要望を聞き、本人には日常生活の中から意向を確認し介護計画に反映している。できあがった介護計画は職員間で回覧し情報を共有している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>情報伝達は、朝夕の申し送りや月1回のミーティング、連絡ノートで行なっている。介護記録には、入居者の状況が分かるように具体的に書くよう職員に指導している。介護計画は設定期間毎にモニタリングを行い見直しを進めている。入居者の状態に変化があった場合は随時、介護計画の見直しをしている。現在、入居者のアセスメントはセンター方式（アセスメントシート）を取り入れ、生活歴や本人の希望、意思をより詳細に把握できるよう職員が記入している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>日常的な健康管理を徹底しており、状態の変化には早期発見や医療サポートの充実に努めている。提携医と24時間連絡可能であり、指示を得ることができる。入院時にはこまめに病院に行き、情報提供や関係機関との連携を図り早期退院に向け支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医への受診は可能であり、その場合の付き添いは基本的には家族にお願いしている。難しい場合にはホームで対応することも可能である。ホームの提携医による定期的な往診があり、何かあればすぐに対応し、24時間連絡可能な体制である。日々の健康管理についても提携医にアドバイスしてもらい、水分摂取量や排泄、歩行など自立支援に力を入れている。足のマッサージ器があり、訪問時に入居者が順番に行っていた。また、リハビリには希望者が通っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期の看取りについては、過去に経験もあり、本人や家族の希望に添うよう最大限努力している。家族とは常に話し合い確認しており、家族と主治医、主治医とホーム、職員とが連携を図り、ホームで可能なことはできる限り対応していきたいと考えている。入居者の状態をみながら「終末期生活のための契約書」の説明を家族に行い、意向を確認している。現在、医療連携体制加算は受けていないが今後検討している。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>個人の記録はリビングの畳スペースで記入している。書類は畳スペースで保管しているが、入居者の目に触れることはない。職員は入居者の部屋に入る時はノックし、声をかけてから開けるよう努めている。日々の関わりにおいて、「親しき仲にも礼儀あり」を念頭に置き、人生の先輩である入居者を敬い言葉づかいに気をつけ対応している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日程表は作られているが起床、就寝の声かけをするが強制するものではない。飲酒者は現在はいないが過去にはあり、ホームで管理し行事や外食時などに飲酒していた。また、家族などとの外食時の飲酒は、帰居時に報告を受けている。喫煙はタバコをホームで預かり、時間表示カードを作り、喫煙本数の確認ができるようにし、トラブルの生じないよう配慮して楽しんでもらっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	調理（皮むき、すじとりなど）は入居者と職員が共に行っている。食事は職員も一緒に介助や見守りをしながら摂っている。下膳は職員が行い、入居者は洗い物や茶碗拭きを行っている。献立は職員が、入居者の希望を聞きながら立て、1日1,500kcalを目安にチーフを交えて話し合っている。		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	入浴は1日置きで曜日は決まっているが、時間は午前午後と入居者の希望に添っている。以前、毎日入れるように取り組んでみたが、外出やレクリエーションの時間と重なることもあり、入居者の希望がほとんどないこともあり現在の状態に戻した経緯がある。入浴の嫌いな方には職員が声かけやタイミングを工夫して促している。訪問時にも声をかけて入居者が気持ちよく入浴できるよう対応している職員の姿が見られた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	入居者の能力、体調に合わせて、無理の無い範囲で、食材の皮むき、土筆のはかま取り、おぼん拭き、洗濯物干し、たたみなど、日常作業の役割を一緒に行っている。また、手芸、裁縫を職員と楽しんだり、自室で編み物をしたりと体調に合わせての散歩やベランダでの外気浴など、本人のやりたいことを職員がそっと支援する配慮がされている。		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	散歩は入浴日以外に午前、午後にわけ出かけている。近くに公園があり、こども達とのふれあいがある。個人の希望が出た場合には、できる限りその日に行けるよう業務を調整して支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	居室には鍵はついていない。玄関は夜間のみ施錠しており、日中は開放している。人の動きが察知できるよう、玄関の戸を開けるとメロディーが流れるようになっている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回業者による設備点検を実施している。避難訓練については、昨年に火災を想定して実施している。火災発生、緊急マニュアルが整備されいつでも見れる場所に設置している。災害時の備蓄品においては準備には至っていない。		消防署に協力依頼したことがあるが、実施までには至っていないことから計画を早めにたて依頼し、火災だけでなく地震や夜間時など色々な場面を想定した訓練の実施に期待したい。また、災害時の備蓄品の準備も望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分摂取量を把握しており、水分は1日1,000～1,500ml 摂取できるよう支援している。活動的である昼食に重きを置いた献立になっている。糖尿病の方にはご飯の量や塩分を調整して対応している。入居者の排泄リズムを把握しており、月2回体重測定を実施しているなど健康管理が確実にこなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには職員が持ってきた季節の花が生けてあり、季節を感じるができる。ユニット毎に季節の飾り物を入居者と職員と一緒につくっており、リビングに掲示されている。廊下は広く、入居者が寛げるよう椅子が要所に設置されている。また、入居者に分かりやすいようトイレや風呂場などが大きく表示されている。トイレには各自のリハビリパンツやパットなどが置かれているが、藤の柵に入れ管理しており見た目にも工夫されている。畳のスペースもあり、洗濯物を入居者と職員と一緒にたたんでいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼットが備え付けになっており、それ以外に入居者の使い慣れた家具やベッド、仏壇、写真、小物、趣味の品などが持ち込まれ自由に装飾されている。化粧を毎日する人は化粧品セットが揃えられていた。携帯電話を使用している方もおり、家族との電話を楽しんでいる。部屋の模様替えをする方もいる。居室は入居者が掃除を行っているが、職員が状況を見ながらさりげなくフォローし清潔を保っている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。